



学校創立142周年

百年松

阿木名小中学校便り 令和3年9月27日発行

◇校訓「かしこく やさしく たくましく」
あ 明るく元気なあいさつができる子ども
ぎ ぎりぎりまであきらめず努力する子ども
な 仲よく笑顔いっぱいの子ども
 ~花いっぱい、元気いっぱい、笑顔あふれる阿木名っ子~



阿木名小中学校

阿木名オリンピック

校長 井上 泉



こぶげきれい あかしろ
 「鼓舞激励～紅と白 心を一つにみんなの思いをひびかせよう～」
 のスローガンのもと、阿木名小中学校の「秋季大運動会」が無事開催されました。暑い中での予行練習や準備、突然の雨に後始末したり、グラウンド整備に追われたり…。でも当日は絶好の運動会日和となりました。

さて、コロナ感染対策のため、2年連続で午前開催となりました。入場制限や種目のカット、楽しみなフォークダンスもできず、物足りなさを感じている人もいたかもしれません。そんな心配をよそに、制約がある中でも子どもたちは、自分たちができる精一杯のパフォーマンスを披露してくれました。目の前のことに一生懸命な小学校1年生から、阿木名校の最高指揮者としての中学校3年生の動きには、目を見張るものがありました。

見応えのある種目として、小学校1年生から中学校3年生までの紅白全員リレーがありました。バトンを渡す側、受け取る側の表情は真剣で、自分のチームのために頑張ろうとする気持ちがあふれていました。走力のあるなしにかかわらず、阿木名校が一つになった瞬間でした。

また、まだ暑さの残る校庭で応援の練習を繰り返していた姿や、元気いっぱいのソーラン節、かけっこやリレーの練習など、当日までのこの練習時間こそ大切な時間であり、人数が少ない中、選手として競技に出場したり、役員として裏方に回ったりと大活躍する姿に、たくましさを感じ、やはり学校行事が子どもたちをぐんと成長させてくれるのだと、改めて感じた日になりました。

全児童・生徒がそれぞれに力を思う存分発揮し、達成感を感じていることと思います。これからの子どもたちのますますの活躍に期待しています。

コロナのため応援にも制限のある中、声援を送っていただきました保護者の皆様、ありがとうございました。また、夏休み中の奉仕作業へのご協力や、地域の方々のご支援で、砂の提供・校庭の整地等、素晴らしい環境の下で運動会が実施できましたことに、心から感謝申し上げます。来年こそ地域の皆さんを招待し、子どもたちの躍動する姿を披露できることを願ってやみません。

さて、秋といえば、〇〇の秋という言葉をよく耳にします。今回は「読書の秋」に少し触れてみます。最近では電子機器が急速に普及し、活字離れが進んでいるといわれます。読書は、表現力・想像力・読み解く力・感性等を育ててくれます。映像で見る風景は、見る人は同じように見えるけれど、文章で表現してある風景は、読んだ人の想像で全く違うものとなります。それこそが、読書のもつ良さです。

小学校時代、推理小説にしか興味のなかった私が、中学校の担任の先生から勧められた、「石坂洋次郎さんの陽のあたる坂道」をきっかけにさまざまなジャンルの本を読むようになりました。その中の、15少年漂流記は、ジュール・ヴェルヌが書いた冒険小説で、無人島に漂流した少年達が力を合わせて生活していく物語で、ジャングルを切り開き冒険していく様に、胸がわくわくしたことを今でも思い出します。皆さんも、ぜひ図書館へ行き、新しい世界をのぞいてみてください。

